

令和4年度

社会福祉法人 友垣福祉会

ラスカル保育園

事業報告書

/

令和4年度 ラスカル保育園年間事業報告書

1 ラスカル保育園々舎、敷地の管理規模

所在地 沖縄県うるま市石川1916番地7

敷地面積 1,482㎡

施設面積 1階 420.21平方メートル

2階 241.07平方メートル

符号1

物置 鉄筋コンクリート造陸屋根平家建 12.87平方メートル

2 児童定数及び職員数の管理及び確保（年度末）

☆ 児童定数 75名

令和4年度児童数（年度末人数） 75名

内訳

クラス	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
定員	8名	12名	15名	15名	15名	10名
園児数	9名	12名	15名	14名	13名	12名
職員数	3名	2名	3名	1名	1名	1名

主任保育士1名 フリー保育士 1名 保育補助 6名
その他 園長 事務1名 調理2名

☆ 職員総数 23名

職員年俸の30%
＝30万円給付料

非正規
パート

3. 職員研修

今年度は途中入職をふくめ保育士が13名おりましたので、コロナ感染症の状況を踏まえ、保護者の協力を頂きながら月1回土曜日に時間を設定し園内研修を行い学びの機会としました。クラス内の園児の成長や家庭環境を周知しケース会議・気になる子の情報交換 更に、外部で受けた研修の報告会も行いました。

コロナの影響もあり外部研修は、ほぼリモートの研修になりましたが、特に経験の浅い職員に開催された研修は機会をとらえ受講をすすめるようにしました。ベテラン職員に関しては、特にキャリアアップの研修で、専門分野別に8項目の中から選択し研修を受けることで、保育士としての資質をさらに向上させる機会が得られたようです。うるま市主催の職員研修等も受講し、特に虐待防止の研修は、発見の機会が多いとされる保育園施設では、大事な研修ととらえ毎年受講し気持ちを新たに学びの機会を持つようにしました。又、子供の感染症や食物アレルギーなどの毎日の食事環境の学びも報告会にて周知することができました。

外部講師としては、児童発達の作業療法士の先生の講義では、普段の保育現場での悩みやかかわり方等実践に役立つ勉強会を年に2回持ちました。

なお、各クラスの園児の成長発達の経過について毎月情報を共有することで、成長の状況や課題を共有し担任以外でも声掛けや対応ができる体制を作り、より理解を深めることができました。

4 保育活動

今年度末には、コロナ感染症も収束に迎えつつあったので、送迎時の保護者が室内に出入りすることを開放し、又 保育参観も各クラスで行い喜んでもらえました。行事のあり方も徐々に緩和し室内換気や人数制限の入れ替え制で運動会や体育指導の様子を見てもらう機会をつくり保護者に好評を得ることができました。通常保育の中では、天気の良い日は園庭での砂や土とふれあい お散歩や公園あそびで体を動かし、秋の遠足では大型バスにのって子供のくに行き楽しい時間を過ごすことができました。季節の野菜も園内の畑で育て、目の前で成長をみることで、お世話収穫と調理そして実際に食べるまでの一連の流れを行う事で苦手な野菜にも親しむことができました。

(サラダ菜・人参・小松菜・とうもろこし・おくら・ピーマン・トマト・なす・たまねぎ・おいも・すいか等)

4. 5歳児クラスのお楽しみ保育では、嘉手苳にある鍾乳洞へ行き、その後読谷の広い公園にておもいきり体を動かしました。また、最後のお別れ遠足でもザリガニ釣りや公園遊びなど体験型の日程をこなし満足した様子でした。

また、園庭あそびの充実を図るためにも、砂場ユニットの嵩上げ工事を行い砂が保たれるようになりました。保護者会から寄付を頂いたので固定遊具の塗装やネット

取り換え修繕や砂場用の片付け柵もそろえることができ、子供たちの遊びが広がってきました。

残念ながら、コロナの収束に伴い、反対にインフルエンザが猛威をふるったため、クラス全員がそろわない中で練習もままならない状況でしたが、3年ぶりに、全員参加の発表会も開催することができ、保護者の皆さんに大変喜んでもらいました。』

5 特別保育事業

延長保育の利用は、保育時間外や夕方6時から7時までの間で日々の単発利用者と合わせて年間延べ291名の利用がありました。コロナになって3年目であり、通常の勤務になっているようで延長利用は前年に比べ50人ほど多い状況でした。一日平均はわずか1名から三名ですが二名の職員で預かっています。

6 ボランティア活動

ちびっこ掃除団は、コロナ禍の中なので他園と集まることはせず、各園での活動に切り替えましたが、1月の嘉手苅観音堂は、子供たちの健康祈願の為、由来の説明を行い5歳児のみで千羽鶴を奉納してきました。

7 児童及び職員の健康管理と福利厚生

児童の歯科、内科検診、蟯虫検査、尿検査は基準にそってそれぞれ年2回行ないました。又、検温と消毒ができる機械を取り入れたのでいち早く感染状況を把握する目的で家族全員の健康チェック表で、健康状態の確認を念入りに行い、気になる症状はお迎えをして頂くように協力してもらいました。残念ながらコロナウイルスの感染は、今年度だけで園児35名・職員10名の感染があり対応に追われましたが、保護者の協力と役所の指示を仰ぎ適正に保護者へのお知らせを行い休園することなく運営できました。

8 予算の管理執行

今年度は、年度途中ではありましたが保育士の採用があり0歳児の園児の途中入園が3名あり行政側と保護者に喜んでもらいました。

うるま市の補助金事業には積極的に申請し、職員を充てることでうるま市事業への参加をおこない補助金の増額が決定しました。

9 その他

※ 新入園児の要保護児童を受け入れしたことで担当課とほぼ毎日情報共有で連携し、園児の安全の確保と対応に努めました。

※ 園児の安全面と園での様子 虐待を視野にいれた親子間の関わり等を把握し、双方で報告を密に行い状況確認に努めました。

- ※ 医療的ケア児の食事の制限に伴い、糖質の管理と該当児の体調面に配慮を要しました。(低血糖の際のタブレット補給 個別献立表の管理)
- ※ 配慮を要する子の支援に向け、保護者と面談を重ね専門機関につなげることで小学校でのヘルパーの医療的加配の申請を行いました。
(保護者との面談・ヘルパー加配申請・のびのび相談・教育委員会・児童支援事業所との連携)

- ※ 学生の保育実習生4名を受け入れて、年少児保育の学び体験にしてもらいました。
- ※ 小学校生活がスムーズにいくよう、卒園児の申し送り等もしっかり行いうことで園児理解をしてもらいました。

- ※ 避難訓練は、毎月欠かさず行い火事や地震津波を想定した中で、初期消火や避難指示や説明等を行い安全対策に努めました。

- ※ 卒園式は、3年ぶりにマスクを着用せず開催し、無事感動的な式を行う事ができました。これからも、社会の状況に対応しつつ安全かつ適正な保育園の運営に努めて行いたいと思う。

